

C-up ワールド

2003年9月号

2003年8月の山行記録

講習山行

八ヶ岳・阿弥陀南稜
8月30日

参加者

横川秀樹・山野昭人・佐々木恵子・阿出川忍・
斎藤典子・山野美香(本科生)
小林幸恵・茨木嘉道(シニア)
大久保リン(遠足)
河野操(ゲスト)
坂口理子(SL)
金沢和則(講師)

計12名

コース・行程の概略

船山十字路→立場山→阿弥陀南稜→阿弥陀岳→
御小屋尾根→船山十字路

コースの核心ポイント

南稜P3ルンゼ、御小屋尾根上部の下り

コメント

冬に向けて全体のコースを頭に入れることを目的に
参加した。旭小屋裏手から尾根までは足に優しい柔
らかい土で心地よい登り。但し尾根筋の右側にはワ
イヤーが張り巡らされ、「入山禁止!違反者罰金〇
万円」の看板が至る所に・・よっぽどお高いキノコ
が採れるらしい。立場山までの樹林帯はやや急だが
穏やかな天気のおかげが軽いせいか快適だった。
そこから青ナギまでの樹林帯ではテン場候補地を探
しながら真白き雪に包まれた木々を想いワクワクし
たが、核心のP3手前になると急に風が強くなりこ
れが冬だったら・・と想像すると身が引き締まる想
いがした。P3には真新しいフィックスロープがあ

り、落石に注意すれば特に問題ない登攀で尾根に出
る。そこから先しばしの岩稜歩きであっけなく山頂
へ到着した。ここで赤岳鉱泉組と下山組とに分かれ
下山組は御小屋尾根を下るが、本当の核心はこれか
らだった。上部はかなり急なザレ場で、初めのうち
は「ラク!」といいながら下りていたがそんなこと
をいちいち言っていられないくらい足元から土砂
石と身体と一緒に崩れ落ちていく感じだった。今年
の夏の大雨も崩壊に拍車をかけたのだろうか。
今回の山行で雪に覆われていない赤岳を初めて見た
が、赤岳は赤かった・・。

報告者 山野 美香

△△△△△△△△△△△△△△△△

2003年9月の山行記録

自主山行

南アルプス/北岳バットレス(ピラミッド・フェース)
2003年9月5-7日(予備日1)

参加者

L金沢和則 SL坂口理子

計2名

感想

『そうか、そうだったんだ・・・』
ピラミッド・フェースを終了し四尾根への登攀に
入るところでそれまでの憶測が確信に変わった。
はじめてバットレスに足を入れたのが十数年前か
な。それからだって数多くバットレスに来たわけじ
ゃない。それでもピラミッド・フェースはここ数年
頭の片隅に存在し続けていた。

山塾でできる自主山行、それも本科を卒業して

研究生・同人で残った人と共にイーブンな関係での山、できればバリエーションと呼ばれているルートへ。

山塾でも継続していれば、リスクが少しある山行企画も実現できるぞ・別に大上段に構えてのことではないけれど、そんなことが表現できたらいいかと考え、バットレス四尾根&一ノ倉南稜に自主企画でもいってみよう計画がはじまった。そのとき声かけしたメンバーの軸は松本や坂口ら。それまで講習以外では接点もなかったので室内やゲレンデ、いくつかの自主山行を重ねる。それと講習への参加もより積極的に・・な～んて書くといかにもご立派でございませう風だが・・ま、そこそこ適当にね(笑)。

ともかくなんだかんだで99年の10月初旬にバットレス四尾根へ、このときは3人(松本・坂口・金沢)。入山日と登攀予定日は雨だったが予備日は雲ひとつない秋晴れ、最良のコンディション。五尾根の支尾根をアプローチにゆったりと四尾根を終了、充実した山を楽しめた。

白馬いきました、槍や剣にもいきました、北岳バットレスから谷川岳一ノ倉南稜もいきました、そして・山やめました式の安直路線と考えられるのも嫌だしな、横に広げる(いろいろ方法はあるけれど)意識あるぞ!を示すには一度いったバットレスに同じルートでもいいし、違うルートからでもまた来よう・と、つぎに進めたのがピラミッド・フェース。じゃ来年に向けてメンバーも増やし、それに向けてのいろいろな企画も・あ、また言葉にするとご立派でございませう風になっちゃうな、ここもそこそこ適当にね(笑)。

それから何年かが過ぎてしまう(大袈裟)。その当時の山塾の事情や自分(達)の状況で計画段階からボツになるなど、いろいろあったが、ともかく自分自身は今年(03年)こそはまとめたいなという意気込み、いや思い込みかな。冷夏で雨の多い8月、延期、延期となり、当初計画では松本・矢田・坂口・金沢の予定だったが残念ながら今回は最小ユニットになってしまった。それでも無事トレースでき、帰ってこられたということですね。

『え～っ、なんだよ山行報告じゃねーよ。何言ってるんだかわかんないよ』

そうですね。そもそも最初の『そうか、そうだったんだ・・・』はなんだ?

そう、表向き?の目的とは別にもうひとつの目的があったんですね。もちろん単純に試してみたいという気持ち以外に。

それは99年にいった四尾根と、はじめていった四尾根と印象が違う・・具体的には一部ライン取りが違うのではという疑問だった。99年のときは間違いなく四尾根に登攀したと考えられるのだが。

『もっと左じゃないの』『なんかブッシュが多いね、四尾根のライン左かも』はじめていったときのパートナーとの会話だ。現役大学生の若手Nとわたしが組む。このときは全部で5人。3人パーティーは岩崎さんとKとY。おのずと2人のほうがはやいし、若い彼について勢いだけでの登攀。3人パーティー途中から離れるが声は届く範囲だ。白い岩のピッチ付近で岩崎チームは多少ブッシュがあってもカンテ状をまっすぐ進む。ぼくらは左にややトラバース、すっきりした壁状にルートを探る。少し上で合流そうなので「いいよ、大丈夫ならそのままいって」と岩崎さんの声にも後押しされ進む。少し大変だったような気もするが勢いでいってしまう。その後も順調に進み山頂こ。(その時は)バットレスの四尾根以外のルートなんてあまり関心はなかった。ともかくバットレスに来ることができた感激に支配されその時は終わった。[おまけの話: このときNとわたしは次の日、一尾根の正面壁もトレース、勢いで恐いですね]

そう、はじめての四尾根のことが99年に四尾根にいったことで思いだされたのだ。

何か違うな～?!。実はピラミッド・フェースのラインは終盤になると四尾根に近いところを平行に登ることを正確に認識したのはそれからだった。ピラミッド・フェース終盤の核心部分への入り口には、四尾根から左に頑張つてトラバースすれば(少し緊張はするけど)いけちゃうんだよね。



・ ・ もしかして、はじめて来たときは一部レートを左に寄り過ぎたのでは。

『そうか、そうだったんだ・・・』 は、正にそうだったんですよ(笑)。

まったく、これだからアルパインルートは面白い! ?いけるところって上に抜ければいいんだよ(ちょっと暴言)。

ここでせめて山行報告らしく・・・各ピッチの取り方などはガイド本などいろいろあるのでそれを参考に・・・ピッチを細かく取るとか微妙に報告により違うのもアルパインならでは。とにかく各自の感性で。

登攀具に関してはそれぞれの考え方や意見あるだろうけど、ふたりでの装備の主なところは、クイックドロ-12セット・カラビナ 18枚・スリング 8本・テープスリング(長) 5本・テープスリング(短) 4本程かな。ザイルは9ミリ 45メートル 2本で、カミングディバイス(カム)はエイリアンが 3/4、1、1と 1/2、キャメロット 1の 4個(フレンズなら 1とか 2付近かな)。その他ハーケン数枚以上など。エイト環や ATCなどはもちろん必要だけれど。

このルートで二つほどある核心部分はクラックなのでカムが役にたった。とくに核心二つ目のライン上にあるハーケンなどはすべて紙製・・・はウソだけどそれと同じ意味合い、小指で簡単に動いてしまう、どこでミスっても墜落係数は 2だ。自分で打ったハーケンとカムのセットが心の支えだった。雪をまとい、日差しを受けるルートでは支点の状態は常に変化するので注意が必要だ。

こうして 2003 年のピラミッド・フェースは四尾根につながり、北岳山頂に到着することができ「ホッ」。また山頂から白根御池小屋のキャンプサイトに戻る途中から見る周辺のどっしりした山々、これが実にいいんだな。蛇足になるけど芦安からの林道の崩壊で奈良田からの入山となったが、これもいま考えるとワクワクするものがあってよかったと思えた。

投稿

C-UPコラム『新人クライマーのひとりごと』

第10回

山のトラファル対処法 その巻

私はムシが嫌いだ。でも、ムシは私のことが好きらしい。山から戻ったときは、ムシに喰われて身体のおちこちがかゆくなっていることがよくあるのだ。山では何ともなかったのに、家に帰ったあとで症状が出てくることも多い。先日、小川山のクライミング講習から帰ってきた日は、その夜中に足の数箇所から猛烈なかゆみが発生して目を醒ました。

こうしたかゆみは、多分、ブヨ(ブト、ブユともいう)に刺されたものだろう。私は、ムシの専門家ではないが、ブヨのかゆみは、刺された直後ではなく、しばらくたってから出るらしい。

山をやっている人は、多くの人はこの辛さを一度や二度は経験されたことがあると思う。ブヨに一箇所でも刺されたら激しいかゆみに一週間以上も悩まされ続け、掻けば掻くほど症状が悪化し、刺された部分の皮膚が固くなってしまう。しかも、市販のかゆみ止めの薬は、ほとんど効果がないときている。

しかし、このブヨ刺されには、あまり知られてはいないが、効果抜群の特効薬があったのだ。この方法は雑誌「カヌーライフ」の藤原尚雄編集長が 2002 年の春号で紹介していたもので、ニュージーランドで川下り中にサンドフライ(Sandfly: ブヨ)に刺され、そのとき現地のガイドから教わったらしい。

その方法はとっても簡単。熱いお風呂に入るだけ。ニュージーランドではあちこちに温泉が沸いているらしく、藤原氏は川原に沸く温泉につかり、アツという間にかゆみが引いたと書いている。

私もこの方法を知ってから、かゆみに悩まされることは、ほとんどなくなってしまった。お湯の温度については、藤原氏は 50 度と書いているが、それだとヤケドしかねないので、私の場合はシャワーの設定温度を 43~44 度ぐらいにして、刺された場所に 1 分間ほど集中的にかけている。これだけで、掻

きむしりたくなるようなかゆみがすっと消えてしまうから不思議なものだ。(蛋白系の毒成分が一定の温度で変性するのが理由のこと)

ただひとつ難点といえば、山では風呂がないので長期縦走の途中で刺されたときには処置ができないという点だろう。下山するまでひたすらかゆみを我慢するしかない・・・。

やっぱり製薬会社さんには、一刻も早く、ブヨにも効くクスリを作ってもらいたいと思うきょうこの頃だ。(秀)

※この方法を試す場合は、ヤケドにご注意下さい。
ブヨ以外にも効いたりします。

アドレス

無名山塾

<http://www.sanj.c.com>

Phone 03-3941-3481

Fax 03-3941-3482

編集局から

今年の8月は台風・雨の影響で、南ア・明神谷・大無間・小無間夏合宿、北岳バットレス講習が中止になり山行原稿が集まりませんでした。関係各位のご協力により、阿弥陀南稜講習山行原稿をいただき発行できました。ご協力ありがとうございました。ちょっと変則的ですが、9月の山行報告も今月号に掲載させていただきます。自主山行された方は、ぜひ山行報告原稿お願いいたします。山塾のホームページ(山行報告入力フォーム)にて山行報告を入力し送信して頂くと、私にメールの形式で自動的に送信される仕組みになっております。本科生のみならずさまにはご協力よろしくお願いいたします。また、報告文章掲載が抜けていた場合にはご指摘ください。次号に掲載するようにいたします。